

魅力的な教材の  
開発・活用による  
道徳教育の推進

## 「実践研究」

# 豊かな風土が育んできた 伝統や文化，先人の生き方に学ぶ 道徳教育の推進

—道徳教育用郷土資料「熊本的心」の活用を通して—

## 熊本県教育委員会

### はじめに

熊本県では，平成21年3月に熊本県教育振興基本計画「くまもと『夢への架け橋』教育プラン」を策定し，「未来を拓く『くまもとの人』づくり」の基本理念のもと，県民一人一人が，豊かな人間性と創造性を育みながら，希望に満ちた人生を送り，「くまもとに生まれてよかった」と感じることができる教育の充実を図っている。

「豊かな心」を育む教育については，本計画の中で「生きる力」を育む教育の柱として位置付けており，特に，道徳教育の充実に取り組んできた。

主な取組は，次のとおりである。

#### ①道徳教育推進協議会の設置

本県の道徳教育の振興のために，有識者や大学関係者，保護者等を委員とした道徳教育推進連絡協議会を開催してい

る。より広い視点から本県の課題や研究推進校の実践をもとに本県の中長期的な施策等について御意見をいただき，具体的な取組を検討しているところである。

#### ②道徳授業実践DVD「道徳の授業の一層の充実のために」（小・中学校用）の作成

道徳の時間の基本的な指導の在り方を理解し，実践することができるよう，道徳の時間の進め方や指導上のポイントについて実際の授業映像に解説を加えながら編集したDVDを作成し，各学校へ配付した。

#### ③「生きる力」を育む研究指定校（心の教育研究推進校）の指定

「生きる力」を支える「豊かな心」の育成に向けて，現在の学校教育に求められている課題や新学習指導要領で求めている教育活動全体を通じた道徳教育の推進，魅力的な教材の開発などについて実

実践的な研究を深め、その成果を普及する目的で、研究指定校を指定している。

また、郷土のすばらしさを伝え、人間の生き方や考え方を共感をもって学び、郷土に対する愛着を深めることができるよう昭和63年に作成、配付した本県独自の道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用を図ってきた。

### 道徳教育用郷土資料 「熊本の心」

「熊本の心」の配付から約20年が経過したことや平成18年に改正された教育基本法において「公共の精神」や「生命や自然を尊重する態度」「伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに国際社会の平和と発展に寄与する態度」が新たに規定されたことから、平成21・22年度の2年間にわたり「熊本の心」の改編作業に取り組んだ。

教材を作成するに当たっては、学校関

係者によって組織した資料作成部会によって、これまでの教材を見直すとともに、内容項目を網羅することや、児童生徒にとって身近な教材となるよう題材について県内各地域のバランスを考慮しながら、全体で新しく33編の教材を開発した。

児童生徒用の読み物資料は、郷土くまもとの先人の生き方に学ぶ教材、伝統や文化の継承から学ぶ教材等（小学校1・2年用、3・4年用、5・6年用、中学校用、計4種類）から構成し、巻末には、県内全ての市町村の祭や文化財等を紹介するページを設けている。また、視覚障がいがある児童生徒に対応した点字版の読み物資料を新たに作成した。

また、教師用指導資料には、道徳の時間のねらいや展開例、板書例や児童生徒用ワークシートを掲載し、併せて作成したCDには、読み物資料及び全ての教材の学習指導案、ワークシートの電子デー

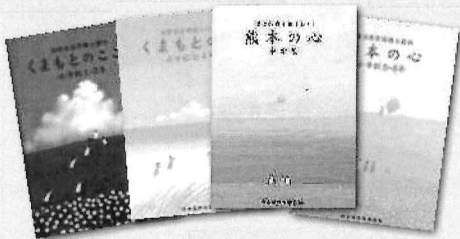


図1 道徳教育用郷土資料「熊本の心」

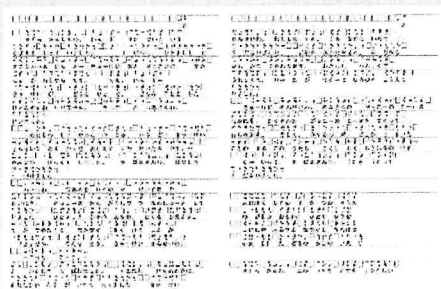


図2 「熊本の心」点字版

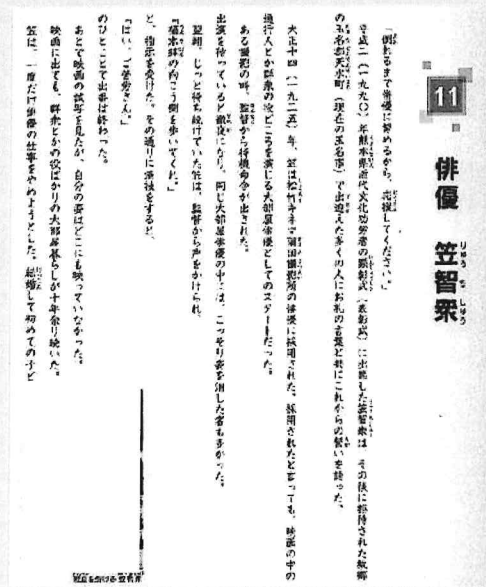


図3 中学校用「俳優 笠智衆」より

タとともに、写真やイラストの画像データを収録し、道徳の時間の充実に資するよう配慮した。

また、朗読DVDは、プロのアナウンサーの朗読だけでなく、メニューを選択すると、挿絵や写真が入った読み物を見ることができ、児童生徒がより実感をもって理解できるようにした。

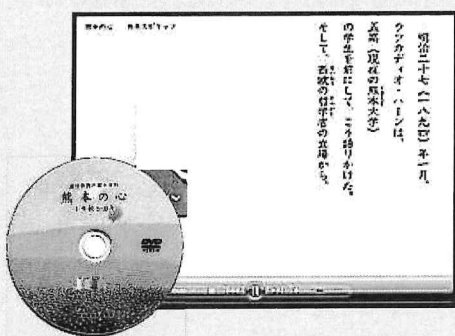


図4 朗読DVD

これらの読み物資料等は、平成23年度末、公立の小中学校及び特別支援学校にそれぞれ配付し、全児童生徒分を各教室に整備した。

さらに、授業における活用だけでなく、家庭及び地域での活用を推進するため、公立図書館及び公民館にも配付した。

## 道徳教育推進教師を対象とした研修会の開催

平成24年8月、県内の小中学校の道徳教育推進教師を対象に道徳教育推進教師の役割や、要となる道徳の時間における「熊本の心」等の効果的な活用方法について研修する道徳教育研修会を開催した。

### ①全体説明

本県における道徳教育に関する現状と課題を踏まえ、道徳教育を学校の教育活

動全体を通して行うための道徳教育推進教師の役割や、推進体制の整備と指導計画の作成について、説明を行った。

### ②実践発表

本県教育委員会が高い専門性と実践的指導力を有している教員として認定している「授業マイスター(道徳)」2人が実践発表を行った。

#### ①全校で取り組む道徳教育の推進

道徳教育推進教師の役割とその取組を中心に、次の点について発表した。

- ・学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるための指導体制や指導計画の整備に関すること
- ・道徳の時間を充実させる校内研修の充実や教材整備に関すること
- ・豊かな心を育む環境づくりや家庭や地域との連携の在り方について

#### ②「熊本の心」の効果的な活用

蟻田功氏の生き方を題材とした『あきらめることは無意味だ』(小学校5・6年用掲載)を用いた授業についての実践発表であった。

本資料は、蟻田功氏が、天然痘の根絶という高い目標を立て、根絶チームのリーダーとして、世界規模の課題を乗り越え、根絶に至るまでの苦悩とそれを乗り越える意志の強さ等を取り扱った題材である。

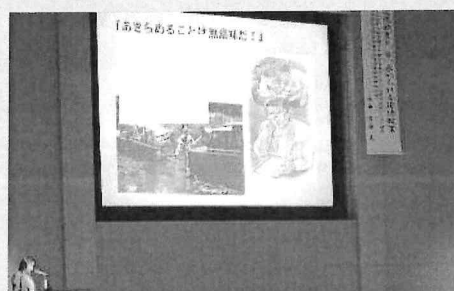


図5 道徳研修会での実践発表

発表では、教材研究を進めるうえで、蟻田氏本人に直接、話を聞いたこと。授業で、主人公の気持ちを共感的にとらえるための可視化カードの活用や本人からのメッセージを取り入れたことにより児童の意欲を高めるとともに身近に感じられたことが発表された。

#### ③講演

東京学芸大学永田繁雄教授を講師として招き、「新しい道德教育と、今、求められる道德授業」と題して広い視野から道德教育の進め方について講演をしていただいた。

まず、新学習指導要領が求める道德教育・道德の時間の在り方や、全面実施におけるの確認事項について、丁寧に説明をしていただいた。

次に、道德教育の要となる道德の時間の授業づくりについて、道德の時間の特質を軸に、豊かに学ぶための着眼点や授業づくりの手順・ポイントなどについて、豊富な資料と具体例をもとに分かりやすく説明していただいた。

#### ④演習・協議

個人演習では、各校から持参した道德の時間の年間指導計画、全体計画の別業をもとに、「各教科の特質に応じた道德教育の推進」と「『熊本の心』の活用」に関する課題を付せん紙に記入していくことで、自己の課題を整理していった。

グループ協議では、小中学校混成のグループをつくり、個人演習で作成した付せん紙をグループ内で課題ごとに分類し、それまでの全体説明、講話、実践発表を踏まえて、明らかになった課題について解決に向けた方策を話し合ってもらった。

現在、道德教育推進教師が抱えている悩みや課題解決のための取組について共有することができた。



図6 道德教育研修会でのグループ協議

## 「熊本の心」活用事業研究推進校の指定

### ①研究推進校の概要

県内の教育事務所管内ごとに研究推進校（小学校6校、中学校3校）を指定し、「熊本の心」の効果的な活用について実践的な研究を行っている。

各研究推進校では、以下の視点で研究を進めている。

- ・道德の時間における活用方法の工夫
- ・道德の時間以外の効果的な活用
- ・年間指導計画への効果的な位置付けの工夫
- ・家庭や地域での活用方法の工夫

研究成果を、保護者や地域、教育関係者への授業公開やリーフレットの配付などによって、各地域で普及・啓発を行っている。

### ②道德の時間での活用事例

①**主題名** 家族の一員 4-(6)家族愛

②**資料名** 「草泊まり」（中学校用）

#### ③内容

草泊まりは、阿蘇地方で昭和40年ごろまで行われたものである。

牧畜をやっている農家が冬場の牛馬の

飼料確保のために草泊まり小屋に泊まり込み、一家をあげて刈り干し切りを行い、子どもたちも、山小屋に泊まり込んで手助けをしていた。その様子について俳句を織り交ぜて表した資料である。

#### ④ねらい

家族の一員として自覚をもち、協力し合って、よりよい家族関係を築いていこうとする心情を育てる。

#### ⑤展開

	学習活動	生徒の反応
導入	1 アンケートの結果をもとに、「草泊まり」について理解度を確認する。 「草泊まり」について知っている：6人 知らない：25人	「聞いたことはあるけど、どんなものが詳しくは知らないなあ。」 「わらでつくった家に泊まるって聞いたことがあるけど…。」
	家族の一員としての自分の在り方を考えよう。	
展開	2 資料「草泊まり」を読み、考える。 ○「草泊まり」を通して子どもたちが学んだことについて考えてみよう。	「仕事の大変さを学んだんじゃないかな。」 「自然の雄大さを感じたんじゃないかな。」 「家族で協力することの大切さを知ったと思う。」 「学校が休みなんていいなあ。」
	3 家族の一員として自分の姿を振り返り、これからの自分の在り方について考える。 ○家族の中で、自分に何ができるかを考えてみよう。	「自分はあまり家のことを手伝っていないなあ。」 「家族はそれぞれ、みんなのためにがんばっているんだなあ。」
まとめ	4 本時を振り返り、感想を書く。	「今まで、あまり家族と話をしなかったけど、これからは家族と話をして協力しながらがんばりたい。」

#### ⑥生徒の変容

自分が住む地域を題材とした資料を活用することで、自分自身の状況と重ね合わせながら実感をもって学習に取り組むことができた。

ふだんあまり話すことのない「家族」

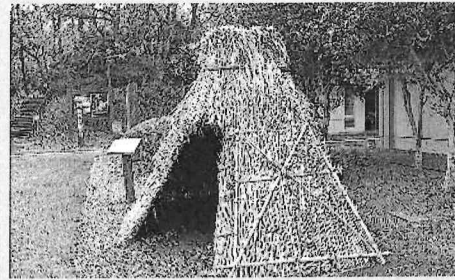


図7 草泊まり 再現展示（南阿蘇ビジターセンター）

について生徒同士で話し合ったことで、家族について改めて見直すとともに、友達を見直すことにもつながった。

#### ③道徳の時間外での活用事例

##### ①読み聞かせでの活用

児童が夏休みの期間中に保育園訪問を行い、読み聞かせを行った。読み聞かせに使う題材として、「かっぱのねがい」（小学校1・2年用）を使った。

地域に残る話を園児に伝えようという思いをもって意欲的に練習に取り組んだ。園児も読み聞かせをしっかりと聞いていた。

##### ②「熊本の心」の関連学習

～地域の伝統文化体験教室（山鹿灯籠を学ぶ）～ 関連資料：「たった一基のほう納灯ろう」（小学校5・6年用）

「熊本の心」で扱われている地域の教材の中で、郷土の伝統・文化である山鹿灯籠について、地域に誇りがもてるようにという願い

から、灯籠師を講師として招き、関連学習を行った。また、灯籠作成体験活動を行い、受け継がれた伝統的な技のすばらしさに気付くことができた。

### ③人材・郷土コーナーの設置

郷土の先人や文化財等を抜粋し、廊下等に掲示した。道徳の時間の学習と関連させながら、掲示物を読む生徒の姿が見られるようになった。掲示物は、授業で使う事前学習資料としても活用した。

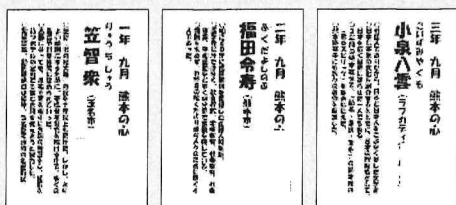


図9 人材・郷土コーナーの掲示

### ④家庭への啓発

「熊本の心」を使った研究授業について、家庭にその学習内容と生徒の様子を学級通信や学校だよりで紹介した。

内容としては、教材の内容や価値はもとより、「熊本の心」が編集された意図や地域での活用方法についても紹介した。継続的な掲載により、保護者や地域の方々にも関心をもって読んでいただいている様子が伺える。

## 成果と今後の展望

全教育活動を通して取り組む道徳教育の推進については、平成23年度の本県の調査と比較すると、道徳の時間の授業研究会の実施回数や「熊本の心」の取扱時数、先人の伝記等を題材とした教材の開発や活用への取組が増加している。

これは、「熊本の心」を魅力ある教材として各小中学校が活用しているからであると考えられる。

今後は、研究推進校の実践をまとめ、実践事例集等を作成・配付し、効果的な活用方法について普及・啓発を図っていく予定である。広く家庭や地域と連携を図りながら、さらなる道徳教育の推進に努め、郷土くまもとに誇りをもち、夢をもって生きていくことのできる児童生徒の育成に努めて参りたい。

(文責 指導主事 梅本和高)

## 熊本県教育委員会の取組

新版『熊本の心』は、昭和63年作成の資料を大幅に改訂し、平成24年春発行された。地域に根ざした道徳教育推進のため平成22年にスタートした道徳総合支援事業を活用し作成している。郷土に誇りをもち愛着を深める教育を目指した『熊本の心』は、特に充実したものとなっている。4冊全体97編中33編、中学校用31編中10編が新たに作成された資料である。新資料に加えて、プロのアナウンサーの朗読と映像を収録したDVD、全ての教材の学習指導案・ワークシート・資料を収めたCDを作成。4冊から各10編前後を選び視覚障がいがある児童生徒に対応した点字版も作成している。葉祥明さんの素晴らしい表紙、巻末の45の市町村を網羅した「熊本の姿」の紹介と魅力的な教材となっている。「熊本の心」とは、具体的には「助け合い、励ましあい、志高く」の心であるとのこと。『熊本の心』は、学校と家庭や地域をつなぐ教材ともなっている。中学校版は、様々な時代、様々な分野で活躍した人々や特徴ある地域の31の物語で構成され、小学校で取り上げた人物や伝統文化も、異なる角度や視点から描くことで、深く掘り下げている。24年度には研究推進校による『熊本の心』活用のための実践的な研究が行われている。熊本県におけるさらなる道徳教育の充実におおいに期待したい。

(教育調査官 澤田浩一)